

種目名	国語	選定替えの有無	有・無	選定発行者名		従来の発行者名	光村図書
-----	----	---------	-----	--------	--	---------	------

発行者 観 点		東京書籍	学校図書
1 学習指導要領との関連		「言葉の力」が領域ごとにバランス良く配置されており、身につけさせたいポイントを意識して言語活動を展開するのに優れている。特に、「話す・聞く」の領域では、「学びの扉」が示され、学習課題の把握、学習活動の充実が図れるよう工夫されている。	近代の代表的な文豪である森鷗外・夏目漱石・芥川龍之介の作品（高校の教科書では取り上げられていない作品）が取り上げられている。表現教材の前には、「活動を考える」というコーナーが設けてある。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		道徳性・社会性の向上を目指した教材が選定されている。「話す・聞く」では、「学習の流れ」で協働的な学びを支える学習活動が系統的に示されている。「読書案内」のページが多く、読書活動の推進に関連している。	3年間を通したテーマとして、「社会と人間の関わり」「様々な関わりの中にある自己」を取り上げている。また、伝統文化を継承・発展させることができる古典教材を用いるような工夫がされている。
3 内容等	(1) 内容の選択	基礎編・資料編が充実しており、基礎的な知識・技能の習得と活用に効果的である。	選択教材が用意されており、学習状況に応じた活動ができるよう工夫されている。
	(2) 内容の程度	1年の導入の教材は、「話す・聞く」から始まっており、興味を引きやすい。説明文章では、社会的・科学的なテーマが扱われており、他教科との関わりを持ちやすい。	五つの単元は全学年共通のテーマであり、学年が進むごとに同じテーマについて掘り下げた内容となっており、発達段階を考慮している。作品ごとに「学びの窓」が設定されており、言語感覚を磨く工夫がされている。
	(3) 内容の構成	「読む」単元を生かした「書く」単元が配置されており、系統的な学習に効果的である。また、「学びの扉」が設けられており、言語活動の導入として扱いやすい。	学習の目標が教材冒頭部分に青字で示されている。表現教材の前に、読解と表現を連携させるための「活動を考える」が置かれている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等		資料編は色、表現ともにとっても見やすい。古典教材のカラー写真は伝統文化に親しむのに効果的である。	優しい色合いで、領域ごとにページの色を統一し、学習者が何を学んでいるのかをわかりやすくしている。
5 印刷・造本等		必要に応じて、活字の大きさを変え、読みやすくなるような工夫がある。古典教材の現代仮名遣いに色が入っており、読みやすくなっている。	脚注の小さな写真なども見やすい。表紙裏から目次にかけての絵が興味・関心をひくものになっている。

発行者 観 点		三省堂	教育出版
1 学習指導要領との関連		「学びの道しるべ」や「読み方を学ぼう」により、基礎・基本からスタートし、身につけた力を繰り返し活用しつつ、新たな力を習得していくことができるように編集されている。	百人一首や古事記、伊勢物語などが1年生から掲載され、指導要領にある「時代的・文化的背景との関連を理解し、古典に親しむ態度」を育成できるようになっている。また、近代以降の作品も各学年で取り上げられている。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		真摯に仕事に取り組む人間や、環境に目を向ける教材が取り上げられている。世界に視野を広げ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う内容が盛り込まれている。	人とのかかわりのなかで、自分を見つめ直す教材が取り上げられている。特に3年生では「文化としての科学技術」や「花を贈る」など、世界に視野を広げたり、自らの人生を見つめたりできる作品が掲載されている。
3 内容等	(1) 内容の選択	1年「手塚治虫」、2年「村上春樹」「俵万智」、3年「あさのあつこ」など、現代の作家の作品を積極的に取り入れている。また長く受け継がれた文化の資料などを取り上げ、道徳的心情を育もうとしている。	各教材で、目標に対して、「みちしるべ」として「確かめよう」、「深めよう」、「考えよう」という「学習の手引き」が示されており、思考力・判断力・表現力の育成を図る学習活動が明確になっている。
	(2) 内容の程度	各学年の学習内容が段階的・系統的に配置されている。「本編」と「資料編」の2部構成になっており、「資料編」には発展的な教材や自主学習に役立つ教材がまとめられている。	自然・生命・歴史・福祉など、多彩な内容を取り上げている。科学技術や世界遺産、国際社会の問題など、実社会と関連している題材が多く、発達段階に応じて視野を広げていく工夫が見られる。
	(3) 内容の構成	教材ごとに「つきたい力」を「領域別教材一覧」にまとめている。「読み方を学ぼう」には、習得した力を活用する方法がまとめられている。	「読むこと」と「書くこと」や「話すこと・聞くこと」との関連が図られており、学習計画がたてやすい。てびき「みちしるべ」やコラム「ここが大事」を設け、個々の学びが具体的になるようにしている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等		資料編では、伝統芸能の紹介として、能や狂言などのカラー写真が掲載されたり、1年生では漫画を挿入したりするなど、分かりやすく説明されている。	古典教材では、資料や折り込みで写真や資料が掲載されており、生徒の興味・関心・意欲を高める工夫が見られる。イラストよりも写真を豊富に用いることで、より現実味あふれるものに工夫されている。
5 印刷・造本等		カラーユニバーサルデザインの観点から、色の濃淡や罫線などの工夫を凝らすことで、誰もが使いやすい教科書となるよう配慮されている。	表紙・見返しは、ともに淡い配色で、極めてシンプルである。図表などにおいても、文字を大きく、わかりやすい色使いがなされている。学年ごとに統一された色調で構成されており、見やすくする工夫がされている。

発行者		光村図書
観 点		
1 学習指導要領との関連		学習指導要領の目標をしっかりと押さえつつ、1年「学びをひらく」、2年「学びを広げる」、3年「学びを深める」といった発展的・系統的な学びの配列になっている。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		懸命に生きる人間の姿を描いた教材を多く取り上げることで、自らの人生をたくましく切り拓き、かけがえのない自他の命を大切にすることのできる人間を育てるように工夫されている。
3 内容等	(1) 内容の選択	震災関係の作品や国際的視野を広げる教材などを巧みに取り上げるなど、さまざまな分野から価値ある話題・題材をバランスよく取り上げている。
	(2) 内容の程度	行事等の学校生活や社会生活に関わる話題・題材を使って、身に付けた言葉の力を生かす場を示すよう工夫されている。また、発達段階に応じて、習得と活用を繰り返しながら、力を高められるようになっている。
	(3) 内容の構成	各学年とも、「基礎・基本」から「習得・活用」、そして「振り返り」へと教材そのものが発展的に配列され、理解に応じた学習が意図されている。また、単元ごとに3領域1事項の教材を関連づけて構成されている。
4 表記・表現及び使用上の便宜等		新出漢字や注意する語彙などは、欄外を上手く活用し、工夫されている。一つの教材における漢字の提出数を制限して、過重負担とならない配慮もされている。
5 印刷・造本等		表紙は堅ろうで、印刷は鮮明である。特に見返しからのページは、紙質もよく、写真が鮮やかである。学年ごとにカラーユニバーサルデザインに対応した統一的な色も分かりやすい。